

[資 料]

芝草研究
J. Jpn. Soc.
Turfgrass Sci.
35 (2), 116~117

日本芝草学会 2006 年度秋季大会 ゴルフ場部会記録

芝生生産地の実情報告と 2006 年度春季大会の課題の再討議

山 田 孝 雄

ゴルフ場部会長／東洋グリーン(株)

2007 年 3 月

芝草研究 第 35 卷 第 2 号 別刷

Journal of Japanese Society of Turfgrass Science

Vol. 35 No. 2 March 2007 (Reprint)

日本芝草学会 2006 年度秋季大会 ゴルフ場部会記録

芝生生産地の実情報告と 2006 年度春季大会の課題の再討議

山 田 孝 雄

ゴルフ場部会長／東洋グリーン(株)

2005年に当学会に設置された「ゴルフ場部会」は、ゴルフ場の芝生管理者と学会との研究面での結びつきを強め、身近な学会として支援できる体制をつくることが目的である。

2006年秋季大会にあたっては、大会運営委員と部会運営委員の議論に基づき、2005年秋季大会と同様に、春季大会に諸般の事情で参加できない会員および地域ゴルフ場関係実務者が身近に学会活動に参加できる機会を各地でつくっていく一環として、春季大会の研究発表の中から特にゴルフ場関係実務者に興味深い題材をより具体的に紹介し、あわせて大会開催地域のゴルフ場管理者および芝草生産者による話題提供と意見交換を行うこととなった。

今回の秋季大会における部会は「芝生生産地の実情報告と2006年春季大会の課題の再討議」をテーマに、2006年10月30日午前9時30分から12時まで、大会会場である米子コンベンションセンター小ホールで、147名の参加のもとに行われた。開会に当たって部会長が挨拶を行った後、4題の講演が行われた。

まず、新中国グリーン研究所の中村公治氏により、「芝生地雑草の動態 中国・四国地区」の講演が行われた。この講演では、同年の春季大会シンポジウム「わが国における芝地雑草の動態」での発表を基に、「ゴルフコース内で増えた草種」「中国地区での特例」「フェアウェイの劣化にともなう雑草」などのトピックが紹介された。ここでは、近年のゴルフ場管理の変化を踏まえて、コース内で増加している雑草の紹介、寒地型芝草の雑草化、除草剤の効果が上がりにくくなった雑草などの例が紹介された。また、フェアウェイにおける施肥・刈り込み・更新作業・目土などの管理作業の減少に伴い、芝の密度低下・排水不良などのフェアウェイの劣化が生じ、雑草の増加につながっていることも指摘された。

つづいて、(株)理研グリーンの早川敏広氏による、「ベントグラスデッドスポット病の特徴について」の講演が行われた。この講演では春季大会での研究発表を元に、より詳しい紹介が行われた。まずこの病害の内外での研究事例の紹介の後、わが国での発生事例、病徴、菌の特徴、再接種試験による病原性の確認、芝草種類による感受性などが、豊富なスライドによって紹介された。その後、病原菌を接種した芝草への殺菌剤処理試験を元に、この病害に対して有効な殺菌剤が紹介された。また、現場で混同しやすい病害として、ダラー

スポット病、黒点葉枯病(カッパースポット)、*Drechslera* 属菌およびその近縁菌による病害を取り上げ、その見分け方を紹介した。さらに今後、発生地域の確認、発生草種の確認、診断方法、効率的防除方法などが検討課題である、とした。

次に、鳥取県芝生産組合の石川浩二氏による、「ゴルフ場の要望に応える芝生産一品質向上への取り組み」の講演が行われた。この講演では、日本有数の芝生産地である鳥取県における、芝栽培面積・生産者数の推移を踏まえ、その間に行われてきた品質向上への取り組みが紹介された。その内容としては、年間6~7回に及ぶ「指導特集」の発刊により、病害虫の防除方法の指導や、ポジティブリスト制への対応などが行われていることが紹介された。また、優良品種の選抜や、芝栽培管理台帳や圃場調査、現地作業研修会などを通じて、高品質な芝の生産に取り組み、全国各地へ出荷されている様子が紹介された。まとめとして、近年ゴルフ場や公共緑地等において減農薬省管理の取り組みが課題となっていること、そのためには顧客のニーズに応える新品種の開発、さらには各品種の特性を引き出すための生産者の徹底した品質管理が重要になってきていることを指摘し、生産組織での指導の徹底と、商品のレベルを揃えるための品質管理の厳格化が必要である、と結んだ。

最後に、大山ゴルフクラブの入江俊秀氏による、「大山ゴルフクラブにおける芝草管理」の講演が行われた。この講演では、コース概要と沿革に続き、特異的な気象条件のためにコース管理期間に制約があることがまず紹介された。さらに、病害の変遷とその理由、害虫・雑草対策の紹介を行った上で、コース管理上で特に気をつけている点として施肥管理を取り上げ、フェアウェイへの緩効性液肥の利用や晩秋施肥に重点を置き、芝草や土壌の分析を行い、そのデータを反映させた施肥管理が行われていることが紹介された。さらに、更新作業・目砂・サッチコントロール、グリーンへの散水・薬剤散布の留意点、ティーグラウンドの日陰対策、フェアウェイやラフの透水性確保、バンカー管理の合理化などの取り組みが紹介された。

質疑討論では、芝生産地での品質管理の一環として、基準品質に満たず出荷を行えない場合には生産者に対する補償は行われるのか、という質問に対し、そのような補償は行わ

ず、厳しい姿勢で品質管理に取り組んでいることが紹介された。

また、大山ゴルフクラブでの施肥管理に関し、マグネシウムなどの微量要素に関しては、単に資材を与えるだけでは葉身中の含有量は増大せず、更新作業や浸透剤の施用により常に根系の酸素不足の改善を図り、根の活性を高めることが必要であることが紹介された。

また近年関心を集めている炭疽病の防除について、講演者と会場の参加者を交えた意見交換が行われ、発生時期が5月連休くらいから9月中旬まで長くなっていることを踏まえ、予防散布の重要性が高まっていること、特に初発をしっかり叩くことが重要であることが討議された。

最後に、来場者の中からこの年の日本オープンの開催を終えた霞ヶ関カンツリー倶楽部の吉崎氏により、トーナメントへ向けた準備と、大会中の様子が紹介された。

このように今回の秋季大会における部会では、春季大会の発表者が、春季大会の研究発表時間の中では語りつくせな

ったような部分を含め、時間をかけてまた地域に即して論じ、現場管理者にとっても意義深いものとなった。また芝草生産者やゴルフ場管理者自身はその取り組みを紹介し、今後の課題を論ずることは、地域参加者のみならず他地域からの現場管理者や研究者にとっても、新たな取り組みの足がかりを与えるものとなったと思う。

一方で、参加者の中には非学会員の現場管理者の姿も多く見受けられたが、その学会への入会誘導という点ではまだまだ不十分であり、現場から上げられた課題点を研究者に投げかけ、現場に即した研究結果が次々と発表されるような、現場と研究サイドとの輪の完成が急がれることも感じられた。

今後もゴルフ場部会では、あらゆる機会を利用して、各地のゴルフ場関係実務者や研究者を結ぶ交流の場を提供することにより、学会活動の活性化を図っていきたい。

最後に、この部会の開催にあたりご尽力をいただいた、大会運営委員の各位および地域ゴルフ場関係各位、芝生産関係者各位に、改めて心より御礼申し上げます。